

11月の野菜の見通し

平成30年10月30日現在
山形県東京事務所

区分 品目	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		コメント
	前年実績	平年比 見込	5カ年 平均	前年実績	前年比 見込 (%)	5カ年 平均	前年 入荷量※ (t)	前年 占有率 (%)	
だいこん	11,497	少ない	12,516	105	100%	85	28	0.2%	千葉・神奈川産は台風24号による塩害の影響があるが、今後の天候次第で回復も見込まれる。上旬は北海道産と関東産との端境で相場が強まる予想。見通し単価は105円で、前年並み、平年比では大幅に高い。
はくさい	15,800	多い	13,567	81	99%	70	9	0.1%	11月は茨城産が主力となる。生育はやや遅れ気味で小玉傾向ではあるが、玉数は植わっているもので相応の出回り量がある見込み。上中旬は茨城産の増量で弱含みの展開が予想される。見通し単価は80円で、前年並み、平年比ではやや高い。
キャベツ	14,193	並	13,462	105	90%	96	-	-	台風の影響により作柄は良くない。愛知産は年内まで数量あるが年明けは十分な供給が期待できない予想。見通し単価は95円で、愛知・茨城産が順調だった前年より安く、平年比でも安。
ほうれん そう	798	少ない	1,370	927	65%	582	2	0.3%	露地作産地は台風24号の被害があり、台風や曇天により不作だった前年よりは数量多いものの、平年比では少ないことが予想される。下旬には関東露地作が増えて相場は下向く見込み。見通し単価は600円で、不作の前年より大幅に安いですが、平年より高い。
ねぎ	5,352	並	5,541	357	101%	287	287	5.4%	各地とも平年並みの出回りを見込む。中旬には北海道と東北の一部産地が終盤を迎えるため相場は上向く予想。見通し単価は360円で、前年並みだが平年比では大きく高い。
きゅうり	4,507	少ない	4,592	476	90%	417	19	0.4%	11月は東北産が切り上がり、関東産から西南暖地産へ徐々に切り替えが始まる。宮崎産は台風被害があり出方は遅れるが、月後半には増量見込み。見通し単価は430円で、前年よりやや安いですが平年並み。
トマト	5,235	少ない	5,260	437	92%	435	22	0.4%	熊本・愛知・千葉産が中心の出回りとなり、各地平年並みの数量を見込む。中・下旬には熊本産の増量で相場は軟調推移の予想。見通し単価は400円で、前年よりやや安く、平年並み。

引用資料:「東京都中央卸売市場における野菜の品目別取扱実績」(青果物情報センター)、「野菜の入荷量と価格の見通し」(関東農政局)、「野菜の入荷・市況見通しについて」(東京青果株)

入荷量について:「0」はラウンドして1tに満たない入荷があったもの。「-」は本県のデータがないもの(入荷がないか、又は少なかったためにその他の産地に含まれる)